

草原に理解、愛着を持つ人を増やす

全体構想

取り組みの内容

理解、愛着を持つ人々を増やす草原環境学習の推進

学ぶ機会や場の拡大、対象に応じた働きかけ

二次的自然のシンボルとしての、草原についての国民的理解の促進

草原環境学習の様々な取り組みを支えるための仕組みづくり



全体的な評価

今回提出された「活動結果報告」29件のうち、草原に理解、愛着を持つ人々を増やす草原環境学習の推進に関連する活動は16件、そのうち主対象となるのは9件でした。

本小委員会の主対象となる活動では、小中学生を対象とした自然観察や火山体験学習、あか牛とのふれあい、野草紙づくりなどの体験活動や、高校生や大学生が実習として草原維持管理活動に参加しながら阿蘇の草原保全について学ぶ活動など、さまざまなプログラムが行われました。

特に、今回初めての報告となる阿蘇中央高校グリーン環境科では、地元牧野の協力を得て、演習林での維持管理活動、植物調査、募金活動への参加、草泊まりワークショップの実施、茅葺屋根の製作など、多岐に亘る活動を実践し、将来の担い手づくりに大いに貢献しています。

また、本小委員会が平成21年度から5ヶ年計画で実施してきた「阿蘇草原キッズ・プロジェクト」では、5年間で阿蘇郡市内の小中学校24校で草原環境学習プログラムを実施し、延べ1957名の子どもたちが参加しました。阿蘇郡市内全ての小中学校での実施には至りませんでした。導入校は年々増え、先生自らが草原について調べ、授業が行われることも多くなりました。5年間に亘り関係団体や学校関係者と連携して取り組んできたことで、地元学としての草原学習の評価・認識も高まりつつあります。平成26年度からは、「阿蘇草原キッズ・プロジェクト」として、「草原環境学習導入の広がり」と定着を目指して、新たに3ヶ年計画で活動が続けられます。これまでの成果を踏まえて、より地域に根付いた活動になっていくことを目指します。

< 草原環境学習に関連する活動結果報告 >

NO	事業・活動名	担当
15	草原環境学習及び草原維持活動	
16	牧野の草原管理のお手伝い・草原維持管理に関する研究発表	
17	阿蘇の火山体験学習	
18	阿蘇の草原キッズ・プロジェクト	
19	草原学習指導者講習会（阿蘇谷編・南郷谷編）	
20	阿蘇の草原を守るために「野草紙を作ろう」プロジェクト	
21	草原環境学習の基本プログラムの検討	
22	出前講座：阿蘇の草原を未来へつなごう	
23	阿蘇草原再生に関する情報発信資料の作成	
1	原野（やま）の恵み、先人の知恵を木落原野の未来へ（H25年度）	
2	野焼き放棄地の野焼き再開による草原再生	
13	花咲盛における生物多様性保全活動	
26	阿蘇北外輪山及び中央火口丘における草の道再生と活用	
27	阿蘇人（あそんもん）ツーリズムの実施	
28	阿蘇の草原スタディーツアー	
29	押戸石の丘周辺原野の環境保全	

NOは各活動の掲載番号に対応 = 奨励賞を受賞した活動 = 阿蘇草原キッズ・プロジェクト
 牧野管理小委員会における協議の対象： = 主対象となる活動 = 関連する活動

15 草原環境学習及び草原維持活動

実施主体 熊本県立阿蘇中央高等学校グリーン環境科
実施場所 阿蘇中央高校阿蘇清峰校舎、小柏演習林ほか
実施期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日



背景・ねらい

本校グリーン環境科は前身の阿蘇農業高校、阿蘇清峰高校の頃より小柏演習林周辺の輪地切り、輪地焼き、野焼きを授業の一環として実施し、草原の維持管理に取り組んできた。平成22年度より学科名称を変更し、林業や草原を通して地域環境を守る人材育成を目指している。

本活動で生徒たちは阿蘇の草原の成り立ちや農林業との関係など草原について体系的に学習する。また、近年の草原面積減少やそれから派生する課題を生徒たちが主体的に解決し、地域貢献することを目的としている。

実施概要

輪地切り、輪地焼き、野焼きの実施（小柏演習林）：演習林周辺牧野組合と連携して草原の維持管理実習を行った。

野草地での希少植物調査（町古閑牧野組合）：4月から10月の期間、月1回の植物調査を実施。年間を通してのフローラ調査データが取れたため、図鑑を作成し草原再生シールの会に提供した。

草泊り、火消し棒製作

草原再生募金活動：1月26日、募金事務局主催の募金活動に生徒4人、職員2人で参加。

草泊まりワークショップの開催：一般の方に草原に関心を持ってもらい阿蘇の応援者を増やそうと草泊まりワークショップを企画・運営。熊日スパイスや田園空間博物館等で募集し、先着6グループ21名を対象に1泊2日の草原体験を実施した。

茅葺屋根の東屋製作：茅の利用価値を見直すことと伝統技術の継承を目的として、1、2年生が阿蘇清峰校舎内に茅葺屋根の東屋を製作。阿蘇かやぶき工房さんにご指導していただき、3カ月をかけて完成した。茅場探しに苦労したが地元牧野組合の協力もあり、必要量を確保できた。



茅葺屋根の東屋製作

成 果

生徒が草原環境について学ぶ重要な機会となった。

輪地切り：延長2km、野焼き（立山牧野の一部）：参加者生徒約50名、学校職員8名、立山牧野6名調査中の希少種出現に生徒たちのテンションも上がり感動していた。調査結果等をまとめ、熊本県学校農業クラブ連盟年次大会プロジェクト発表（環境の部）に出場し、優秀賞を受賞した。先人の営みや草原との関わりを学ぶ機会となった。火消し棒製作は、講師の山部氏が丁寧に教えてくださり、生徒との距離も縮まり良い体験だった。テレビニュースでも取り上げられた。

生徒たちにとっては初めての募金活動で良いPR機会になった。

草泊まりの指導は手野地区の方に依頼。食事も可能な限り地元の食材を手配し、阿蘇ネイチャーランドの体験メニューや草原学習クイズ、生徒の発表も見てもらい、参加者の草原に関する理解度は大きく上昇。全ての参加者が「次回募集があれば参加したい」と回答した。

技術、見た目の美しさ、全て手作業で非常に手間がかかるなど学ぶことが多く、意義のある製作であった。3年ごとに葺き替え実習を行い、技術の継承と茅の利用価値を高めていきたい。

実施者の感想

草原維持活動、植物調査、草泊り製作、火消し棒の製作は継続、また、茅葺技術を継承していきたい。草原での活動をきっかけに、卒業生の1人が「阿蘇の草原を守るための研究がしたい」と熊本県立大学環境共生学部に進学を決めた。このような生徒を輩出していきたい。

実施主体 関西学院大学 Link ASO
 実施場所 小堀牧野、新宮牧野、町古閑牧野
 実施期間 平成 25 年 10 月 12 日～15 日（現地調査）
 平成 25 年 11 月 25 日（学内発表）



背景・ねらい

2009 年から関西学院大学の学生が主体となって、阿蘇の草原再生ボランティア活動を行なっている。例年、牧野での輪地切り等のお手伝いや交流、環境省やグリーンストックの事務所での勉強会を通じて、阿蘇の草原の素晴らしさと、その陰にある維持管理の苦労や課題を身を持って学んでいる。そして、学んだ課題をどう解決できるかを考え、学内で発表する。このことで、関西で学ぶ学生に阿蘇の草原について知ってもらい、草原維持への理解を広める。

実施概要

阿蘇市内での実習（10月12日～15日）

実習には、関西学院大学総合政策学部の学生7名が参加した。環境省阿蘇自然環境事務所で草原についての講座を受けた後、グリーンストックの輪地切りボランティアの方々と一緒に町古閑牧野の輪地切りと冬野牧野の輪地焼きを行い、また、小堀牧野で牧柵修理作業、新宮牧野で草刈りと交流会を行った。参加者の半数以上が初めての参加で、作業には不慣れであったが、牧野の方やボランティアの方に教わりながら作業を行った。小堀牧野での作業には、学生時代に阿蘇実習に参加していた卒業生1名も参加した。

学内研究発表会（11月15日）

関西学院大学総合政策学部の学内研究発表会において阿蘇の草原と実習について発表を行った。「阿蘇の草原まるわかり情報室」というタイトルでポスター展示を行い、阿蘇の草原の概要や課題、草原再生の取り組みや、私たちの活動について、ポスターと写真を展示して発表を行った。



牧野での作業の様子

成 果

小堀牧野での作業の様子は熊本日日新聞にも取り上げられた。新宮牧野の交流会では、組合員の皆様と交流を深めることができた。

また、今回初めて一般のボランティアの方々と共に作業をしたことで、都市部からボランティアに来ていた方々のお話を聞くこともできた。

学内発表会では、約60名の学生や教授が情報室に来場した。

実施者の感想

こういった作業をするのが初めての者が多かったが、牧野組合の方やボランティアの方の指導のもと安全に配慮して作業ができた。実習参加者は作業後には大きな達成感を感じていた。また、牧野組合の方とボランティアの方との交流を通して、阿蘇の草原の素晴らしさとそこにかかる関係者の熱い思いを感じた。そして実際に見聞きして感じたことを関西に戻って、多くの人に直接伝えることができたことが今回の大きな成果であると感じた。また、こういった活動が熊本日々新聞や、学部のパンフレットの掲載という形で多くの人に知ってもらえたことも成果のひとつである。

17 阿蘇の火山体験学習

実施主体 公益財団法人久木文化財団 阿蘇火山博物館
実施場所 阿蘇山上一帯
(草千里ヶ浜、烏帽子岳、杵島岳、中岳～古坊中)
実施期間 平成25年4月17日～平成26年3月27日



背景・ねらい

火山の活動そのものや、その活動が環境に与える影響など、さまざまな面から阿蘇を捉えようとする動きが始まっている。その一環として、草原の成り立ちや食物連鎖、物質循環、水環境との関連などの面からも草原について学習することは重要である。

このような状況の下、阿蘇を訪れる修学旅行生や地元子どもたちに対して、阿蘇のフィールドを散策しながら、火山、草原、文化などについて解説を加え、学習効果を高めるような事業を実施する。

実施概要

阿蘇を訪れる修学旅行生の他、地元の小中学生などを対象に、博物館見学とともに周辺のフィールド学習を実施した。案内は、博物館学芸員や阿蘇インタープリター（特定非営利活動法人阿蘇ミュージアム所属）が担当し、子どもたちにも分かりやすく解説を行なった。

また、一般の観光客（ガイド希望者）についても、同様のプログラムを実施した。実施時間は3時間、すべて有料。

成 果

< 期間中の利用者数 >

一般 561名、高校生 2,296名、中学生 6,661名、
小学生 2,656名 合計 12,174名

(前年比 +147名、ミュージアムツアーも含む)

< 受け入れ態勢 >

阿蘇火山博物館学芸員3名、学芸員補3名、学術顧問3名、阿蘇インタープリター30名

実施者の感想

今年も他県からの修学旅行生の他、熊本市や阿蘇郡市内の小中学生を対象に阿蘇火山体験プログラムを実施した。今年度は、大学や教育研究機関からの利用もあり、阿蘇火山と草原、草原と人々の関わり等について広く紹介することができた。また、希望があった学校を対象に、学芸員がバスに乗り込んで景観等の解説も行なった。



熊本市立桜山中学校 (H25.9.5.)



時津町立時津東小学校 (H25.9.6.)

実施主体 阿蘇草原再生協議会 草原環境学習小委員会
 実施場所 阿蘇市郡内小中学校（阿蘇全域）
 実施期間 平成21年4月～平成26年3月末（5箇年計画）



背景・ねらい

阿蘇地域の子ども全員が草原に関する一定の知識を持ち、阿蘇の草原保全に対する理解を深めることを目標に、阿蘇草原環境学習小委員会では、「阿蘇の草原キッズ・プロジェクト」を立ち上げ、草原環境学習を進める中から草原環境保全の担い手の確保につなげることを目指す。

このプロジェクトでは、その目標達成に向けて阿蘇市郡内の学校教育現場に於いて、活用できるような学習プログラムづくりを行う。

実施概要

阿蘇の子どもたちが成長過程において、地域で守り継がれてきた草原に必ず触れる機会をつくり、阿蘇の草原に対する一定の知識と興味や関心を高めることができるような仕組み作りを5箇年計画で検討し、実施した。



成 果

草原環境学習の実践

<年間学習実施校と参加人数（モデル校、ショートスクールを含む）>

これまでに小中学校24校、のべ1,957名が参加。

平成21年度	11校	398名
平成22年度	11校	341名
平成23年度	17校	382名
平成24年度	15校	500名
平成25年度	12校	336名



牧野での環境学習の様子

成果物・教材等

- ・導入学習用DVD「阿蘇の草原すてき大発見！」
- ・草原環境学習事例集「阿蘇の子どもたちに草原を伝えよう」
- ・草原環境学習基本プログラム（案）
- ・草原環境学習基本プログラム集
- ・阿蘇草原デジタルずかん

上記成果物について冊子印刷やWEBページ作成等は阿蘇草原再生募金およびA S O環境共生基金の助成による協力体制の構築

- ・阿蘇郡市長・教頭会、教育委員会などの教育関係機関への協力依頼と報告
- ・学校の先生や地域の指導者を対象とした研修会（ティチャーズ・ワークショップ）の開催

実施者の感想

地域に根付いた活動にできつつあり、活動範囲も広がっている。また、関係団体や学校関係と連携して実施していることがすばらしいと思う。

今後も活動を継続し、学校カリキュラム化と、阿蘇郡市内の全小中学校が草原学習を行うことを目標とし、取り組んでいきたい。

実施主体 独立行政法人 国立青少年教育進行機構
 国立阿蘇青少年交流の家
 実施場所 国立阿蘇青少年交流の家
 小堀牧野、町古閑牧野、下碩牧野
 実施期間 平成25年8月7日、8月28日



背景・ねらい

阿蘇市郡内の教員の方々や地域の教育に携わる方々を対象とし、阿蘇の草原環境の現状について学び、草原で実際に体験していただくことを通して、草原環境保全の意識を高める。また、草原について阿蘇の子どもたちに伝えたり、その学習を支援したりするための契機とする。

実施概要

草原学習指導者講習会を通して、阿蘇の草原の現状を知り、草原環境を保全しようとする意識を育成する。また、本講習会で学んだことを阿蘇地域の子どもたちに伝えるための契機とする。対象者は、阿蘇市郡内の教職員及び阿蘇地域在住で子どもたちと行う草原環境学習に関心のある方々。

阿蘇谷編 8月7日（水）

<学習プログラム>

草原と人との関わり（高橋氏）、町古閑牧野（市原氏）、

小堀牧野（田島氏）、プロジェクト説明（木部氏）、

実践発表（森川先生）、ふり返し・まとめ

- ・町古閑牧野では、草原の成り立ちを小堀牧野では牛のえさやり体験を行った。

南郷谷編 8月28日（水）

<学習プログラム>

阿蘇の地形と地質（池辺氏）、下碩牧野（郷氏・寺崎氏）、

草原の生物の多様性（寺崎氏）、プロジェクト説明（木部氏）、

ふり返し・まとめ

- ・下碩牧野では、南阿蘇の牧野の特色やそこに住む生物についての話を聞いた。



牧野組合長の話を聞く



ふりかえりでの発表の様子

成 果

「阿蘇の地形や地質と草原の成り立ち」「阿蘇の草原の生物の多様性」「草原と人との関わり」の3つの講義から、「阿蘇の火山や草原について深く知ることができた。」「草原に住む生物の話聞きながら、担任している子どもたちが知りたかったことがたくさん出てきた。」という感想がみられた。

フィールドワークでは、「市原さん・田島さん・郷さんが草原や牛を本当に大切に育てておられることがよくわかった。」「牛のえさやり体験に感動した。」といった感想があった。

今回の講習会を通して、参加者は、草原と人との関わりについて学び、草原学習の必要性を感じたようである。また、草原環境学習基本プログラムについての理解を深め、草原環境保全に対する意識が高まったようである。この事業後、実際の職場や地域のなかで、草原環境保全について子どもとともに活動を推進している方もいる。

実施者の感想

募集対象を草原に興味・関心を持つ方々に広げていくことで、地域住民一人一人の草原環境保全の意識をより高めていきたい。また、阿蘇谷だけでなく、南郷谷の牧野との連携を深め、それぞれの牧野の特色や違い、取り組みについても理解を深めていきたい。

阿蘇の草原を守るために 「野草紙を作ろう！」プロジェクト

実施主体 NPO 法人九州バイオマスフォーラム
 実施場所 阿蘇市郡内及び地元牧野、福岡市
 実施期間 平成24年4月1日～平成26年3月31日
 (2箇年)



背景・ねらい

現在の阿蘇に住む子ども達の中には、草原に行ったことのない子もいる事から、草原の成り立ちや大切さについて学ぶことが、これからの草原保全にとって重要だと考える。そこで、阿蘇に住んでいる子ども達と草原に行き、野草を刈り、野草を原料とした紙づくりを行うという一連のワークショップを通して、草資源利用と草原保全の大切さを学ぶ体験型の環境学習を企画・実施する。

実施概要

阿蘇の草原を守る次世代の担い手育成と草資源の有効活用を学ぶ事を目的として、主に阿蘇市内の小学生を対象に体験型草原環境学習を行った。

体験型草原環境学習

- ・阿蘇の草原の現状やバイオマスとしての野草の活用方法を学び、学習の成果として阿蘇の草原のススキを使った紙漉きを行い、卒業証書や絵手紙などの記念品作りを行った。
- ・「阿蘇の草原についての学習と景観保全や資源活用などへの関心を高めるきっかけ作り」として、熊本市内の小学校や修学旅行生を対象に草原学習やススキを使った紙漉きを行った。
- ・福岡で開催された阿蘇草原再生募金イベントで紙漉き体験を行った。

身近な資源の利活用をテーマにした環境学習

- ・放課後子ども教室で牛乳パックとススキを使った紙漉きによるハガキ作りを行い、子ども達に身近な資源の利活用について体験してもらった。

紙漉きボランティア研修会

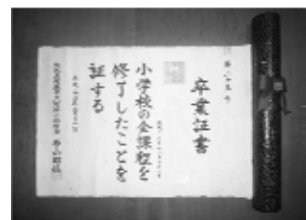
- ・ボランティア全員が紙漉きの全ての工程が出来るよう、また、大人数校にも対応できるようにボランティアの研修を行った。

自主財源の確保

- ・子ども達の草原環境学習を、継続性のあるものにするための自主財源として、野草紙名刺等の販売を行った。



紙漉き体験



完成した卒業証書

成 果

体験型環境学習では、毎年700名以上(小学校6~7校)が野草を使った紙漉き体験を行っている。また、平成25年度は福岡で開催された阿蘇草原再生募金のイベントに参加し、200名以上の方にススキが入った紙漉き体験を通じて、当団体の活動を認知していただいた。

実施内容	平成24年度	平成25年度
体験型草原環境学習	6校	10校
卒業証書や絵手紙作り	6校	119校
出前講座や体験学習	2校	84校
放課後子ども教室	1校	27校
修学旅行・研修旅行	7校	332校
地域のイベント等	3校	290校
合 計	24校	787校

野草紙の販売は、名刺の他に賞状(証状)としての依頼も増え自主財源に充てる事ができた。

野草を使った卒業証書による環境教育の実績が評価され、「第21回くまもと環境賞 循環型社会賞」を受賞(平成24年10月5日)、「平成24年度 地球教育・普及啓発部門」を受賞(平成24年12月12日)した。

実施者の感想

子ども達の中には、はじめて草原に行く子どもも多く、実際に草原へ出向き草原の現状を知ったことで、阿蘇の草原を大切に思うきっかけ作りができた。今後、学校の統廃合で少人数校が少なくなっていく中、機材やボランティアを充実させ、大人数校にも対応できるような体制づくりを行いたい。

21 草原環境学習の基本プログラムの検討

実施主体 環境省 九州地方環境事務所 阿蘇自然環境事務所
阿蘇草原再生協議会 草原環境学習小委員会
実施場所 阿蘇郡市内小中学校等
実施期間 平成25年4月～平成26年3月



背景・ねらい

本活動は、「阿蘇の草原キッズ・プロジェクト」の一環として、学校教育の中に取り入れやすい草原環境学習の基本プログラムを検討するものである。基本プログラムは、草原環境について学ぶ際の基本的な4つのテーマ（1.阿蘇のカルデラと草原の成り立ち、2.暮らしと草原、3.草原がもたらす恵み、4.草原の現状と保全の取り組み）について、学習対象としやすい10のテーマを設定し、汎用的な学習プログラムとして作成した。

阿蘇郡市内の学校を対象に平成21年度から進めてきた草原環境学習の実践成果を踏まえて、平成23年度より基本プログラムの検討に着手し、平成24年度中に10本の基本プログラム（案）を作成した。

実施概要

基本プログラムの検討

平成25年度は、基本プログラム（案）を阿蘇市郡内の小中学校において試行し、その改善点を洗い出して10本のプログラムを完成させ、「草原環境学習基本プログラム集」としてとりまとめた。

<基本プログラム試行実施校>

- ・阿蘇市立坂梨小学校3、4年生（21名） 5月に2時間
- ・阿蘇市立阿蘇小学校5年生（50名） 11月～2月に5時間
- ・阿蘇市立阿蘇小学校6年生（53名） 7月～11月に4時間
- ・南阿蘇村立長陽中学校3年生（13名） 9月に5時間
- ・熊本市立桜木中学校1年生（約200名） 6月～11月に3時間



<実施項目>

- A - 1 阿蘇のカルデラと草原の成り立ちを学ぼう
 - A - 2 あか牛と草原について学ぼう
 - A - 4 草原のススキを使って人形を作ろう
 - A - 5 野焼きについて学ぼう
 - A - 6 草原の生きものについて学ぼう
 - B - 1 草原の危機について学ぼう
- ・上記の施行を基に、ワーキンググループを計8回開催し、内容や文言等の見直しを入念に行った。
施行にかかる講師料等は阿蘇草原再生募金の助成による



成 果

- ・平成25年5月に基本プログラム（案）を発行。
- ・平成25年7月に草原学習事例集を発行。阿蘇市郡内の小中学校に配布。
- ・平成26年3月、好評のため事例集を増刷。

実施者の感想

- ・受付窓口やコーディネートシステムの基盤作りが必要。
- ・学習内容に合わせて対応できる講師を増やすことも検討する。
- ・H24年に発行した事例集は、教頭会にて全学校に配布したが、担任の先生方はほとんどご存じないなどの反省を踏まえ、担当の先生に直接お渡ししたり、希望される学校に配布し、限られた数量を有効に活用する。
- ・活動資金の確保、対応できる人数・回数、受入れ牧野との連携、マンパワーなど課題も残されている。

22 出前講座：阿蘇の草原を未来へつなごう

実施主体 環境省 九州地方環境事務所 阿蘇自然環境事務所
実施場所 阿蘇市郡内小中学校、高等学校及び地元牧野等
実施期間 平成25年4月～平成26年3月末
(通年・学校の要望に対応)



背景・ねらい

阿蘇に暮らしていながら、草原と人との関わりについて知らない子どもたちが多いのが現状である。阿蘇の草原を守っていくためには、地元の理解が不可欠であり、そのためにはまず、地元の子どもたちに、阿蘇の草原環境に興味関心をもってもらうことが重要である。そこで、小中高校の総合学習や地域学習などの時間に出前講座を行う。これらの学習を通して、阿蘇の草原は人の手によって守られてきたこと、千年を超える長い歴史の中で守り続けられてきたことを伝え、それぞれの子どもたちが故郷を誇りに思う気持ちを育てる。

実施概要

「人の暮らしと共にある草原」や「阿蘇の草原の現状と課題」など、阿蘇ならではのテーマに興味・関心を持ってもらえるように、対象にあわせた学習内容を学校の先生と相談しながら企画した。その際、平成24年度に阿蘇草原キッズ・プロジェクトの一環として作成した基本プログラム案を活用して、その試行も積極的に行った。

成 果

阿蘇市郡内の8校延べ281名を対象に計18回、熊本市内の1中学校177名を対象に1回、その他2団体23名に各1回の出前講座を実施した。

通年の学習プログラム(年間通して複数回行う)(阿蘇郡市内3校)

- ・坂梨小学校3年生10名(3回)、4年生11名(2回)、5年生17名(1回)、6年生16名(1回)
- ・阿蘇小学校(碧水+乙姫 平成25年度統合)5年生53名(2回)、6年生53名(3回)
- ・りんどうヶ丘小学校4年生11名

関係団体との連携プログラム(阿蘇郡市内5校)

- ・尾ヶ石小学校6年生8名、古城小学校6年生12名
- ・山田小学校6年生9名、阿蘇西小学校6年生20名
- ・宮地小学校(平成25年度中通小と統合)5年生61名

その他の団体や阿蘇郡市外の学校(3校)

- ・熊本市立桜木中学校1年生177名、LINK ASO 8名
- ・東海大学阿蘇 15名



草原での草花探索

実施者の感想

先生が変わっても継続できるよう、地域の方と学校とが繋がるシステム作りが、重要と思われる。

先生自身が積極的に草原について調べられ、学習に創意工夫が見られた。

また、草原と火山の恵みとして、校区内牧野の地域資源を調べる学習も行った。子どもたちの発見や興味をかきたてる事ができたいへん好評だった。



あか牛とのふれあい

実施主体 環境省 九州地方環境事務所
 実施場所 阿蘇市郡内を主対象
 実施期間 平成25年7月～平成26年3月



背景・ねらい

草原再生事業は、地域内外の様々な人々との連携により取り組む必要があることから、草原の価値や魅力、阿蘇の草原の現状、草原を保全する意味や草原再生の取り組みなどを広く発信して情報を共有することにより、合意の形成を図ることが重要である。そのため、草原再生に関する情報発信資料の作成を行い、その配布を実施した。

実施概要

阿蘇草原再生ニュースレターの発行

環境省が実施している草原再生事業の取り組み（草原環境学習出前講座、牧野カルテ作成など）を紹介する資料として、平成25年9月に第26号を、12月に第27号を各3,500部発行し、阿蘇市郡内の牧野組合や阿蘇草原再生協議会関係者、関係機関等に配布した。

阿蘇草原カレンダーの発行

平成25年度は、草原とともにある阿蘇の暮らし（食・文化）をテーマに、写真、イラスト、キャッチコピー、リード文、豆知識などにより構成した子供にも理解できる工夫を施し、平成26年3月に835部発行し、阿蘇郡市内の小・中・高等学校及び牧野組合（協議会構成員）や、関係機関等に配布した。

地元の子供及び保護者向け草原新聞の発行

草原の現状や課題を知り、親子で一緒に考えてもらうための配布資料として平成25年9月に第16号（低学年用2,400部、高学年・中学生用4,200部、保護者用6,600部）を、12月に第17号（部数は第16号に同じ）を発行し、阿蘇市郡内の小・中学校と関係機関等に配布した。

また、低学年用の「子どもそうげんしんぶん」では、ぬりえコンテストを2回、高学年・中学生用の「草原しんぶん」では、「第7回阿蘇の草原を描こう！コンテスト」を開催し、ぬりえコンテストで583点、絵画コンテストで22点の応募があった。

応募された作品の中から審査により入賞作品を決定し表彰を行うとともに、全作品展示と地域別展示を実施した。

成 果

ニュースレター、カレンダー、新聞という様々な媒体によって、地域の子供もたちや地元牧野の方々、関係機関等に草原再生事業に関する最新の情報を届けることができた。

また、草原の魅力や価値については、新しい切り口や視点を織り込みながら繰り返し伝えることで、地域の方々や関係者に浸透している面もある。

実施者の感想

情報発信の取り組みはそれぞれの対象者に浸透してきている。引き続き地域や関係者との協働を進めるための基盤づくり、合意形成を図る取り組みとして実施していきたい。



(上) ニュースレター
 (左) 阿蘇草原カレンダー (右) 草原新聞 / 低学年向け

コラム2 「阿蘇草原キッズ・プロジェクト」 スタート!

阿蘇草原再生協議会の草原環境学習小委員会では、阿蘇郡市内の小中学校における草原環境学習の導入促進に向けて、平成21年度～25年度の5ヶ年計画で「阿蘇草原キッズ・プロジェクト」に取り組んできました。その成果を踏まえ、平成26年度からは「阿蘇草原キッズ・プロジェクト」として3ヶ年の取り組みがスタートしました。



阿蘇草原キッズ・プロジェクトの目標

阿蘇地域の全ての子どもたちが草原に関する一定の知識をもち、阿蘇の草原保全に対する理解を深める

5年間で、24 小中学校、1,957 名の児童・生徒が草原の学習に参加

平成21年度から5年間のプロジェクトでは、草原環境学習の実践・検証を通して、学習プログラムの開発や副教材づくり、学習のサポート体制の構築等に取り組んできました。



学習プログラムの実践



指導者講習会

< 5年間の主な成果物 >



導入学習用DVD
「阿蘇の草原 すてき大発見！」



「草原環境学習事例集～阿蘇の子どもたちに草原を伝えよう」

5年間の成果（H21～H25年度）

草原環境学習プログラムの実践・検証

- ・モデル校指定とモデルプログラム実践
- ・1泊2日の体験型学習（ショートスクール）
- ・個別の草原環境学習

学習プログラムの開発、副教材等の作成
協力体制づくり

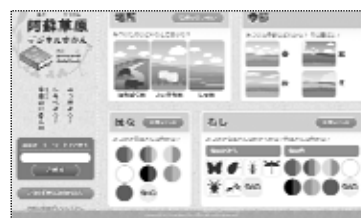
- ・校長会や教頭会等での説明
- ・教育関係者との意見交換会、指導者講習会開催
- ・フィールド、講師との連携 等

プロジェクト では、草原学習導入の「広がり」と「定着」を目指します

平成26年度から3年間は、これまでの成果を活かして、より多くの学校でのプログラム実践や、学習のサポート体制の強化に向けて取り組んでいきます。



「草原環境学習基本プログラム集」



「阿蘇の草原デジタルずかん」（トップページ）

<http://www.city.aso.kumamoto.jp/asokikin/zukan/>

キッズ・プロジェクト

3年間の目標（H26～H28年度）

学校教育における草原環境学習導入の
広がり」と「定着」

- * 草原環境学習の実施校における学習の継続と、新たな導入校の拡大に向けた取り組み
- * 草原について学べる仕組みづくりにより、地域の学習として草原環境学習の定着を図る

< H26年度の主な取り組み >

基本プログラムを活かした学習プログラムの実践（出前授業や短期宿泊型体験学習等）

指導者育成プログラムの充実

- ・「阿蘇の草原キッズになろう（大人の学び編）～阿蘇の草原キッズを育てよう～」(2014.8.8開催)
- ・指導者向けの出前研修「知って伝えよう！阿蘇の草原」（阿蘇郡市内の希望する学校に出前/通年）

教育関係機関との連携強化、関係者との連携・協力によるサポート体制の強化 等